

令和 5 年 6 月 17 日現在

機関番号：12604

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K19671

研究課題名（和文）エコヘルスアプローチによる開発途上国の若者の健康発達のリスク因子と保護因子の探求

研究課題名（英文）Exploring risk and protect factors for healthy development among young people in a lower developing country through ecohealth approach

研究代表者

朝倉 隆司（ASAKURA, Takashi）

東京学芸大学・教育学部・名誉教授

研究者番号：00183731

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：開発途上国ラオスで次の3つの研究を行った。1.ラオスの社会経済開発が若者の健康・病気に及ぼす影響に関する認識を質的データを用いて分析した。2.Questionnaire on eating choicesのラオス語版質問紙を開発し、大学生514名を対象に調査を実施した。その結果、若者が食べ物を選ぶ動機は、健康、衛生・清潔さ、価格と手軽さ、見た目、体重コントロールの5因子であった。3.ラオスで大学生と中学生を対象として、栄養不良の二重負荷、コロナ禍の差別・偏見の防止、メンタルヘルスマネジメント、手洗い啓発活動、月経教育の教材を開発し、教員養成大学と中学校でその評価を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ラオスの急速な社会経済的開発により経済成長を遂げる一方、自然環境や社会、人々の生活様式などが大きく変化した。その影響が、若者の健康や病気、食選択行動に影響していると推測される。本研究では、社会経済開発が及ぼす健康や食行動への影響を知る手掛かりを得た。そして、ラオスにおいて「人間の健康を社会開発、生態系・環境、人間の生業・ライフスタイルとの調和的バランスから考える健康観」に基づいたエコヘルス教育が重要であることを裏付けた。それに基づき授業開発研究を行い、栄養不良の二重負荷、コロナ禍の差別・偏見の防止、メンタルヘルスマネジメント、手洗い啓発活動、月経教育の授業の有効性を示せた点で意義がある。

研究成果の概要（英文）：The following three studies were conducted in Laos. (1) Qualitative data were used to analyze perceptions of the impact of socioeconomic development on the health and illness of young people in Laos. (2) A Lao version of the Questionnaire on eating choices was developed and administered to 514 university students. The results showed that young people were motivated to choose foods based on five factors: health, hygiene/cleanliness, price/convenience, appearance, and weight control. (3) Educational materials on the double burden of malnutrition, prevention of discrimination and prejudice against corona disaster, mental health management, hand washing awareness activities, and menstrual education were developed and implemented to university and junior high school students in Laos to evaluate their effectiveness.

研究分野：国際学校保健

キーワード：ラオス 開発途上国 エコヘルス 若者 社会経済開発 授業開発 食物選択行動

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年のラオスの経済成長は著しく、2001年から2010年までの平均実質GDP成長率は7.1%であった。この急速な経済成長は、ラオス国内における社会経済的開発が活発に行われ、自然環境や社会、人々の生活様式などが大きく変化していることを意味している。

そこで我々は、これまでラオスにおいて、「人間の健康を社会開発、生態系・環境、人間の生業・ライフスタイルとの調和的バランスから考える健康観」をエコヘルスとして提唱し、エコヘルス教育を進めてきた。とりわけ、ラオス国立大学教育学部、8校の教員養成大学にエコヘルス教育を導入し、ラオス国内への普及に努めてきた。そのエコヘルス教育をさらに充実させるために、近年の社会変動下で若者の健康と環境に関わる意識や行動はどのような実態であるのか、それを把握する必要性を認識し、それらをエコヘルス教育に反映させていく必要性を感じてきた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、(1)ラオスの若者が、近年の社会経済的発展が彼らの世代の健康や生活にどのような影響をもたらしているかと認識しているかを明らかにすること、(2)食物選択動機調査票 Food Choice Questionnaire (FCQ)(Steptoe et al., 1995)のラオス語版を開発して、急速な都市化が進むヴィエンチャン首都、ルアンパバーン、パクセに住むラオスの青年を対象に、ラオスの青年はどのような動機で食物選択をしているのか、を明らかにすること、(3)ラオス、日本、ネパールの3か国の共同で、思春期の子どもたちの健康課題に関する教材開発を行い、教員養成校と中学校で実践し教材を評価すること、である。

3. 研究の方法

(1)「ラオスの社会開発と経済発展は、若者の意識や生活・ライフスタイル、教育、仕事、家族、健康、将来の希望にどのような影響をもたらしているか」という研究疑問を立て、まずラオス国立大学の研究協力者の協力を得てラオス語版のインタビューガイドを作成し予備的インタビューを実施した。予備調査の対象者は、パクセ教員養成大学2名、ラオス国立大学教育学部5名の学生である。

本調査では、ラオス国立大学12名、ルアンパバーン教員養成大学15名、サワナケート教員養成大学15名、パクセ教員養成大学15名の学生を対象にインタビュー調査を実施した。

インタビューの質問は、ラオスの経済発展や社会開発を、どのように考えていますか/ラオスの経済発展や社会開発は、若者世代にどのような影響を与えていると思いますか/ラオスの経済発展や社会開発で、親の世代と比べて、若者の生活の仕方やライフスタイルは影響を受けて、どのように変わっていますか/親の世代と比べると、若者の食生活には、どんな違いがありますか/ラオスの経済発展や社会開発で、親の世代と比べて、若者の教育に対する考えはどのように変わっていますか/仕事、将来の就職の面では、親の世代と比べて、若者が置かれている状況はどのように変わっていますか/親の世代と比べて、若者の家族関係は違ってきていますか/若者のレジャーは、親の世代と比べて、どんな違いがありますか/病気や健康面では、親の世代と比べて、若者の状況は変わってきていますか/自分の将来について、親の世代と比べて、希望を持っているようになっていきますか、といった質問である。

インタビューの前に、対象者に自由記述の調査用紙を配布して、ラオス人の研究協力者が調査の趣旨と質問内容の意図を説明し、各自で回答を記入した。それを基に、ラオス人研究協力者がインタビューにより記述された会頭の説明を求め、内容を確認した。このインタビューは IC

レコーダーで録音し、インタビュー終了後に、聞きなおして、記述されていない内容を追加した。

ラオス語の回答を、大学で英語を教えておりバイリンガルで、エコヘルスプロジェクトのメンバーでもある研究協力者が英語に翻訳し、同じ背景の別の研究協力者が翻訳の適切さをダブルチェックした。

翻訳された回答は、テーマ分析の方法で、コードを作成し、サブカテゴリー、カテゴリー、テーマを抽出した。

(2)FCQの原文をラオス語に翻訳し、FCQをラオスの青年に適応させるため、2019年9月にNUOLとサバナケット教員養成センター(TTC)で実施したフォーカスグループインタビューを通じて、FCQのオリジナル36項目について、参加者が項目の意味を理解できているかどうかを確認し、いくつかの項目を削除した。そして、オリジナルのFCQには含まれていない「1 清潔・衛生」「2 エネルギー」「3 消化」に関する項目を追加した。結果的に、47項目を使用した。

参加者は、学校の教室や会議室でアンケートに回答した。NUOLでは283名、Luang Prabangでは142名、Pakseでは179名の学生が回答した。テスト-再テスト信頼性を検討するために、NUOLの281名の学生で2回目のデータを収集することができた。データ収集は2022年5月から6月にかけて行った。

(3)ラオスでは、2022年9月に、ラオス国内の4つの教員養成校(ラオス国立大学教育学部、ドンカムサン教員養成校、ドンドーク教員養成校、ルアンパパーン教員養成校)とその近隣の計18の中学校の教員(合計約80名)を対象として、栄養不良の二重負荷(痩せと肥満)、手洗い啓発活動の企画、月経教育を通じた包括的性教育についての教員研修を実施した。また、10月~11月に、上記3つのテーマに関して、教員養成校及び近隣の中学校(合計約800名)で授業研究を実施した。また、ネパールでは、2022年12月に生活習慣病(肥満と痩せの二重負荷)をテーマとした教員研修を国内の5つの教員養成校の教員(約20名)を対象に実施した。さらに、2023年の2月上旬に包括的な性教育をテーマとした研修を国内の10の教員養成校と6つの中学校の教員(約30名)を対象として実施した。その後、2月中旬~3月に5つの教員養成校(合計約150名)で、生活習慣病(肥満と痩せの二重負荷)についての授業研究、6つの中学校(合計約180名)と5つの教員養成校(合計約150名)で包括的性教育に関する授業研究を行った。

4. 研究成果

(1)ラオスの社会開発と経済発展は、病気や健康面において、親の世代と比べて、若者の状況にどのような影響をもたらしているか、58名の大学生の質的データを分析した。

その結果、397のコードを抽出した。それらをまとめて6つのテーマを生成した。【僻地と都市の地域差】(2コード)、【健康への関心、不安、気遣いが増した】(27コード)、【親世代のほうがより健康】(9コード)、【親世代のほうが、健康問題が多い】(6コード)、【以前より健康】(17コード)、【以前より不健康】(222コード)である。

【親世代のほうがより健康】、【親世代のほうが、健康問題が多い】と【以前より健康】、【以前より不健康】は類似したテーマであるが、前者は、「親世代のほうがより健康」「親世代のほうが、健康問題が多い」という指摘をまとめており、後者はより具体的な健康課題に対する記述をカテゴリーにまとめたものである。

コード数からわかるように、対象者の大学生は、社会開発と経済発展が進んだ社会で生活する若者のほうが親世代に比べて不健康になっていると認識していた。しかし、親世代よりも健康

であるとの指摘も認められた。そして、より不健康であるにせよ、より健康であるにせよ、現代の若者のほうが、社会の変化に伴うリスクや疾病の増加、その一方で健康知識の普及やヘルスケアシステムの整備も進んできたため、健康に対する気遣いやケアをするようになっているが、不安や懸念も併せて指摘されていた。

【以前より不健康】というテーマの中で、最もコードが多いカテゴリーは、『メンタルヘルスの問題』で 87 コードがある。そのカテゴリーの中には、自殺、日常生活のストレス、依存（ギャンブル、スマートフォン、たばこ、アルコール、薬物）というメンタルヘルスの問題が含まれている。次に多かったのは、『性感染症（STD）』で 38 コードがある。このカテゴリーは、社会変動と価値観の変化によってエイズなど性感染症が拡大しているという認識を示している。3 番目にコードが多かったのは、『感染症の増加』であり、22 コードがある。これは、デング熱やマラリア、下痢症など従来の感染症が増えているとの認識を示していた。これらのカテゴリーに次いで『若者の健康への無関心』（17 コード）、『環境や食品の汚染』（11 コード）、『ライフスタイルと病気』（11 コード）が健康課題として認識されていた。

興味深かったのは、【親世代のほうがより健康】との認識であり、自然と調和して生活していたこと、食品や身の回りに化学物質で汚染されていなかったことが、その認識の根拠としてあげられていた。このことから、ラオスの社会開発と経済発展により、ライフスタイルや環境、食生活などが影響を受ける前の生活は現代と比べて健康的であったと認識していることがわかる。この点で、現代の若者の環境や生活はより不健康になっているとの認識と関連している。

ところが、ラオスの社会開発と経済発展の影響を若者がどのように認識しているかを尋ねた回答の分析では、教育へのアクセスの向上、生活の利便性と質の向上、道徳心の向上という良い影響があげられていた。一方で、混雑、汚染、疾病の増加というネガティブな影響があげられている。さらに、金融経済の広がりに伴う影響として、お金が問題になっていた。お金を稼ぎやすい一方で、生活コストの上昇、価値が人間関係からお金に移行するなど、お金中心の社会になっている。IT など現代技術や用具が及ぼす影響も、生活の向上、最新情報へのアクセス向上というよい面があると同時に、怠惰になったり職場での注意散漫となるリスクも指摘していた。社会開発と経済発展の影響そのものは、ポジティブ、ネガティブともに挙げられていたが、健康・病気への影響では、ネガティブな回答が多かった点が、興味深い。社会経済が成長することが、必ずしも健康面では若者によい結果をもたらしていないとの認識を持っている。

本研究の成果は、ラオスにおいて「人間の健康を社会開発、生態系・環境、人間の生業・ライフスタイルとの調和的バランスから考える健康観」に基づいたエコヘルス教育とエコヘルスを実現する社会が重要であることを裏付けている。

(2)探索的因子分析を実施する前に、8 因子モデルによるオリジナル FCQ の測定モデル適合性を確認するため、確認的因子分析を実施した。その結果、適合指数は不十分であった。RMSEA=0.058、標準化 RMR=0.0525 となり、これらは適切ではないが許容できる適合性を示した。しかし、NFI=0.791、CFI=0.856 と、いずれも一般的な基準である 0.95 や 0.90 を大きく下回っていた。

オリジナルな FCQ を修正した 47 項目の探索的因子分析の結果、固有値が 1 より大きい 9 因子が得られたが、固有値の並行分析により、5 つの因子が示唆された。プロマックス回転を用いた 5 因子による因子分析を行ったところ、因子負荷が低い (<0.40) 項目は、その後の因子分析から除外した。5 因子構造では分散の 43.4% を説明することができた。5 因子は、それぞれ「健康」、「清潔・衛生」、「価格・利便性」、「見た目」、「体重管理」と解釈できた。すなわち、ラオス

の青年が食物を選択する動機はこれら 5 因子であると考えられた。

5 因子それぞれの Cronbach の α 信頼性係数は、「体重管理」を除き十分な信頼性を示した。また、テスト-リテスト間の相関で信頼性を検討したところ、5 因子すべて Spearman の rho は 0.6 を超え、満足のいく相関が認められた。

男性より女性の方が尺度得点は高い傾向にあり、「見た目」と「体重管理」で有意な差が見られた。Kruskal-Wallis 検定による 3 つの調査地 (NUOL、Pakse、Luang Prabang) 間の差異を検討したところ、NUOL 参加者、次いでルアンパバーン参加者は、より得点が高い傾向にあり、「見た目」と「体重管理」は有意であった。

(3)ラオス、日本、ネパールの 3 か国の共同で、思春期の子どもたちを対象とした健康課題についての教材開発を行った。具体的には、栄養不良の二重負荷 (瘦せと肥満) コロナ禍で生じる別と偏見の防止、メンタルヘルスマネジメント、予防接種と免疫、手洗い啓発活動の企画、月経教育を通じた包括的性教育についての教材を開発した。さらに、教員養成校と、中学校で実証研究を行い開発した教材の効果評価を行った。

授業実践の結果、教材開発の過程で行った現場の教員に対する聞き取り調査の中で、3 カ国ともに、新型コロナウイルス感染症の蔓延以降、特に思春期の子ども達のメンタルヘルスの問題が顕在化していること等が明らかになった。また、3 カ国ともに、包括的性教育の推進が必要とされており、本研究で開発実践した、月経教育を導入ポイントとした包括的性教育の推進は、各国の教育現場の関係者からも高い評価が得られた。特に、ラオス及びネパールでの実践からは、提案する教育の内容も重要であるが、それを指導する際のタイムマネジメントの重要性が指摘された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 17件／うち国際共著 11件／うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Sachi Tomokawa, Yoshimi Shirakawa, Kimihiro Miyake, Marie Ueno, Tohru Koiso, Takashi Asakura	4. 巻 63
2. 論文標題 Lessons learned from health education in Japanese schools	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pediatr Int .	6. 最初と最後の頁 619-630
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ped.14637.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Miyake K, Tomokawa S, Asakura T.	4. 巻 63
2. 論文標題 Lessons on health promotion from Japanese early childhood development.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pediatr Int .	6. 最初と最後の頁 22-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ped.14400.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Shizume E, Tomokawa S, Miyake K, Asakura T.	4. 巻 63
2. 論文標題 Factors enabling systematized national school health services in Japan.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pediatr Int .	6. 最初と最後の頁 1151-1161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ped.14864.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Tomokawa S, Miyake K, Takahashi K, Tomokawa A, Kokudo S, Ueno M, Kigawa M, Asakura T.	4. 巻 63
2. 論文標題 Health screening system to ensure children's health and development in Japan.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pediatr Int .	6. 最初と最後の頁 869-879
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ped.14733.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ogasawara R, Yamanaka H, Kobayashi J, Tomokawa S, Sugita E, Hirano T, Kigawa M, Nishio A, Akiyama T, Nam EW, Gregorio ER Jr, Estrada CAM, Thongthien P, Kanyasan K, Devkota B, Hun J, Ma Y, Yamamoto BA.	4. 巻 64
2. 論文標題 Status of school health programs in Asia: National policy and implementation.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Pediatr Int.	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ped.15146.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Takeuchi R, Njomo DW, Njenga SM, Tomokawa S, Mutua A, Kazama H, Walema B, Akiyama T, Asakura T, Kamiya Y, Kobayashi J.	4. 巻 64
2. 論文標題 Has the double burden of malnutrition reached pupils in rural western Kenya?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Pediatr Int.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ped.14729.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sachi Tomokawa, Takashi Asakura, Ngouay Keosada, Vannasouk Bouasangthong, Vanthala Souvanhxay, Kethsana Kanyasan, Kimihiro Miyake, Sithane Soukhavong, Khamseng Thalangsy, Kazuhiko Moji	4. 巻 11
2. 論文標題 Reliability and validity of the Center for Epidemiologic Studies Depression (CES-D) scale for adolescents in Lao PDR	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychology	6. 最初と最後の頁 1646-1660
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4236/psych.2020.1111104	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sachi Tomokawa, Kimihiro Miyake, Takeshi Akiyama, Yuka Makino, Akihiro Nishio, Jun Kobayashi, Masamine Jimba, Irene Ayi, Sammy M Njenga, and Takashi Asakura	4. 巻 20
2. 論文標題 Effective school-based preventive interventions for alcohol use in Africa: A systematic review	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Afr Health Sci.	6. 最初と最後の頁 1397-1406
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4314/ahs.v20i3.45	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sachi Tomokawa, Kimihiro Miyake, Takashi Asakura	4. 巻 62
2. 論文標題 Sustainable human resource training system for promoting school health in Japan.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Pediatrics international	6. 最初と最後の頁 891-898
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ped.14292	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Crystal Amiel M Estrada, Ernesto R Gregorio Jr, Kethsana Kanyasan, Jeudyla Hun, Sachi Tomokawa, Maria Corazon Dumlao, Jun Kobayashi	4. 巻 62
2. 論文標題 School Health Promotion in Southeast Asia by Japan and Partners.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Pediatrics international	6. 最初と最後の頁 1029-1038
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ped.14284.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Tomokawa, Sachi, Miyake, Kimihiro, Takeuchi, Rie, Kokudo, Shohei, Asakura, Takashi	4. 巻 62
2. 論文標題 Participation of children in school health in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Pediatrics International	6. 最初と最後の頁 1332-1338
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ped.14347	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sachi Tomokawa, Takashi Asakura, Sammy M. Njenga, et al.	4. 巻 -
2. 論文標題 Examining the appropriateness and reliability of the strategy of the Kenyan Comprehensive School Health Program	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Global Health Promotion (in press)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sachi Tomokawa, Kimihiro Miyake, Takashi Asakura	4. 巻 -
2. 論文標題 Sustainable human resource training system for promoting school health in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Pediatrics International	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ped.14292	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Crystal Amiel M. Estrada, Ernesto R. Gregorio Jr, Kethsana Kanyasan, Jeudyla Hun, Sachi Tomokawa, Maria Corazon Dumlao, Jun Kobayashi	4. 巻 -
2. 論文標題 School health promotion in Southeast Asia by Japan and partners	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Pediatrics International	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ped.14284	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Takeshi Akiyama, Sammy M Njenga, Doris Wairimu Njomo, Rie Takeuchi, Haruki Kazama, Alex Mutua, Barnett Walema, Sachi Tomokawa, Crystal Amiel Estrada, Hanae Henzan, Takashi Asakura, Masaaki Shimada, Yoshio Ichinose, Yasuhiko Kamiya, Satoshi Kaneko, Jun Kobayashi	4. 巻 -
2. 論文標題 Implementation of Kenyan comprehensive school health program: improvement and association with students' academic attainment	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Health Promotion International	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/heapro/daaa005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Tao Xu, Sachi Tomokawa, Ernesto R. Gregorio Jr, Priya Mannava, Mari Nagai, Howard Sobel	4. 巻 -
2. 論文標題 School-based interventions to promote adolescent health: A systematic review in low- and middle-income countries of WHO Western Pacific Region	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0230046	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 朝倉隆司	4. 巻 61
2. 論文標題 全ての人々の健康と持続可能な未来のための学校保健学と健康社会学の融合を目指して：5つの転換	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校保健研究	6. 最初と最後の頁 308-312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sachi Tomokawa, Takashi Asakura, Ngouay Keosada, Kimihiro Miyake, Uttha Khamheang, Kazuhiko Moji	4. 巻 9
2. 論文標題 Preliminary Study of the Reliability and Validity of the Center for Epidemiologic Studies Depression Scale in Lao PDR	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Psychology	6. 最初と最後の頁 2396-2410
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4236/psych.2018.910137	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 朝倉隆司	4. 巻 59
2. 論文標題 学校保健領域で質的研究を始めよう	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学校保健研究	6. 最初と最後の頁 401 -404
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 1件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 国土将平, 友川幸, 佐川哲也, 朝倉隆司, 中野貴博, 上田恵子, B. Devkota, V. Souvanxay
2. 発表標題 ネパールとラオスにおける子ども保健クラブを活用した学校保健活動の参加状況と活動の認識の変化
3. 学会等名 日本発育発達学会第19回
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sachi Tomokawa, Marie Ueno, Nam Eun Woo, Gregorio Jr., Ernest, Kethsana Kanyasan, et al
2. 発表標題 School Health as we confront COVID-19 in Asia: What have we learned and where do we go from here?
3. 学会等名 グローバルヘルス合同大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takashi Asakura
2. 発表標題 Over Ten years' collaboration of Japan Ecohealth Team with FED, NOUL to Introduce Ecohealth Education in Laos: Perspective and Achievements
3. 学会等名 International Research Forum on Science, Technology and Innovation For Sustainable Development at NOUL (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 友川幸, 朝倉隆司, 小林潤ほか
2. 発表標題 SDGs時代の国際学校保健—その複雑さと多様性
3. 学会等名 日本学校保健学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazumasa Ueda, Sachi Tomokawa, Takashi Asakura, et al.
2. 発表標題 Achievements and Challenges on teacher training of Ecohealth education in Donkhamxang and Bankeun Teacher Training College in Lao PDR
3. 学会等名 13th National Health Research Forum (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ngouay Keosada, Takkashi Asakura, Sachi tomokawa, et al.
2. 発表標題 Progression reports for development sustainable dissemination system on Ecohealth education in teacher training colleges in Lao PDR
3. 学会等名 13th National Health Resarch Forum (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>エコヘルス http://asakura-laboratory.jp/echo-health ECOHEALTH http://asakura-laboratory.jp/echo-health</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	友川 幸 (TOMOKAWA Sachi) (30551733)	信州大学・学術研究院教育学系・准教授 (13601)	
研究分担者	竹内 理恵 (TAKEUCHI Rie) (00623084)	琉球大学・医学部・客員研究員 (18001)	
研究分担者	秋山 剛 (AKIYAMA Takeshi) (20579817)	長野県看護大学・看護学部・准教授 (23601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	三宅 公洋 (MIYAKE Kimihiro) (70794858)	信州大学・教育学部・研究員 (13601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
	ラオス	ラオス国立大学教育学部	ルアンパバーン教員養成大学	パクセ教員養成大学
ラオス	National University of Laos	Ministry of Education	Luang Prabang Teacher Trainig College	他2機関
ラオス	ラオス国立大学教育学部	ルアンパバーン教員養成大学	パクセ教員養成大学	他1機関